



兵庫県肝疾患専門医療機関

編集・発行 情報委員会
神戸朝日病院

住所：神戸市長田区房王寺町3丁目5-25
電話：(078) 612-5151
URL: <http://www.kobe-asahi-hp.com>

愛と健康の

かけはし

2020年2月発行

No. 71



2020年 新春のご挨拶 — 医療法人化にあたって —



理事長 金 守良

遅れましたが、明けましておめでとうございます。希望多き2020年の新春を迎え、新年のご挨拶を申し上げます。

さてこの度、当院は、本年2月1日より医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院として再出発することになりました。1988年(昭和63年)4月に、1.まごころと良心をもって診療にあたり、患者の生命と健康を守る 2.最新医学の成果を取り入れ、患者に最高の医療を提供する 3.地域・同胞社会の人々と力を合わせ、患者の医療を受ける権利を守る、の3大基本方針を掲げ、産声を上げ、今日に至るまでの32年間全力で地域医療活動を推進してきました。

この間、1995年に発生した阪神淡路大震災をはじめ、いくつかの困難と難関に見舞われました。それらのたびに、地域の皆さまのあたたかい声援に支えられ職員一同団結して乗り越えてきました。

現在、日本は65歳以上の人口が全体の28%を超えるなど、かつて経験したことのない超高齢社会を迎えています。団塊世代が75歳を迎える、いわゆる2025年問題も抱えています。又、医療保障、社会保障をめぐる状況も、必ずしも予断を許しません。

こうした状況の中、国は地域住民の皆さまが住み慣れた地域で生涯を全うすることのできる地域包括ケアシステムをすすめています。

従って、これからの医療は、“病気を治す”「従来型医療」から“病気を治し、生活を支える”「生活支援型医療」へ転換していく過渡期に

あると考えます。

従来より病院の形態は、急性期病院と慢性期病院に大別されていましたが、到来する超高齢化社会にふさわしい地域包括期病院の役割がクローズアップされてきています。当院はまさにこの地域包括期病院に当てはまり、地域急性期・地域包括ケア・回復期のトータルケアを担っております。その円滑的運営のため、2016年7月には地域包括ケア病棟34床を導入いたしました。

今後、急性期病棟(100床)、地域包括ケア病棟(34床)の機能を全面的に稼働させ、地域の皆様の健康・福祉向上のため、全力投球する考えです。

そのためには、神戸大学、中央市民病院などの超急性期病院との病病連携はもちろんのこと、西市民病院をはじめとする西神戸地域の病院・診療所の先生方との病病、病診連携がますます重要になることは明らかであり、その活動にも力を注ぐ考えです。

私たちは、今般の法人化を契機として心をついにし、これまで以上の誠実さと情熱をもって、西神戸における地域医療の一角を担う覚悟です。地域の皆さまにおかれましては、今まで以上の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

なお、法人設立に際し、神戸朝日病院の開設者に理事長 金 守良、管理者に院長 金 秀基が就任いたしました。新たな気持ちで、これからも職員の先頭に立って医療活動を推し進める考えです。

何卒、宜しく願い申し上げます。

“医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院” 新しいスタートを迎えて



院長 金 秀基

創立32周年を控えた2020年2月より医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院としてスタートすることになりました。患者さま、ご家族さま、歴代のスタッフの方々、連携させていただいております医療機関や施設の皆さま、ご縁をいただいております各社の皆さまのおかげと、心より感謝しております。今回の法人化を契機に新たなステージに進むにあたり、ご挨拶させていただきます。

折しも今年には1995年の阪神淡路大震災から25年目となります。震災は、皆さまにとっても非常に大きな出来事であったと思います。当院も、その当時のメンバーが必死で震災医療を支え、震災を乗り越えた歴史があります。今日に至るまで、本当に多くの人たちの奮闘や尽力に支えられて神戸市は復興を果たすことができましたが、今なおその爪痕や影響が残っていることも事実です。私たちは神戸にある病院として、震災の歴史や復興の過程を忘れずに、人の思いを大切にできるような病院でありたいと考えています。当院にできることはまず、いい診療、いいサービスを患者さまに提供して喜んでいただくことではないかと思えます。

当院は、「急性期」と「慢性期」の間に位置する「地域包括期」病院として、地域医療と専門診療の両立を目指しています。当院の周辺の地域は神戸の中でも特に高齢者が多いエリアであり、さまざまな生活環境の中で複数の疾患を抱えた方も少なからずいらっしゃいます。医療産業都市といわれる神戸市ですが、高齢化社会におけるリアルな患者さまへのアプローチも重要な課題だと考えています。当院は、疾病の治療を十分に行った上で、

一人ひとりの患者さまの生活背景を踏まえて、栄養状態の改善やリハビリテーション、退院調整までを含めたトータルサポートに取り組んでいます。一方で、専門診療については、これまで築いてきた軸である肝臓・消化器（内視鏡）領域においては、さらなるレベルアップを重ねています。加えて、IVR治療やもの忘れ外来まで対応できる幅を広げながら、なおかつ感染管理も含めた各分野での質の向上を図っています。以上のように、地域医療と専門診療を矛盾なく調和させ、結果として神戸市の医療に貢献できればと考えております。

医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院はこれから大きく発展する“将来性”と、中小規模だからこそ患者さまのニーズに柔軟に対応できる“可塑性”をもった病院です。

「関わってくださった患者さまの人生を大事にする」ことを心がけ、医療機関として成長、成熟して参ります。今後も、より一層皆さまのお役に立てる病院を目指して、至誠を貫き邁進する所存です。

今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



編集後記

2月より、医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院として新たにスタートするにあたり、「守破離」という言葉が思い浮かびました。「守破離」とは、もとは千利休の訓で、日本における様々な“道”（茶道、武道等）で使われる言葉ですが、その教えは日常業務にも当てはめることができると思えますし、私自身、何か新しいことに取り組む時はいつもこの言葉を意識してきました。基本的なことは確実に抑えながら、その上で、自由な発想で視野を広げ、他から良いことはどんどん取り入れながら新しいものを生み出し確立させていく、そんな前向きな気持ちでこれからも頑張っていきたいと考えています。（文書課 松井未佳）

守→破→離



ごあいさつ



事務局長 谷口 美幸

●2020年春、当院は開院32年となります。私は、病院が開院して3年目に検査技師として就職しました。検査室で仕事をしたのは最初の7年間で、1998年からは事務部門でカルテ管理、健診、医局事務、地域医療連携室など、さまざまな業務に携わって来ました。2006年から8年間は生活習慣病について、韓国との協同研究にも取り組み、約1000人の被験者を募り健康診断を行いました。

●気がつけば勤続29年。こうして長く勤めることができたのは、院長が掲げた当院のVision ①BE KOBE ②Top Professional ③With your Dreams に集約されています。阪神淡路大震災という大きな困難を乗り越えてきた神戸、当院をとっても誇りに思うこと、さまざまな業務に携わることで、知らないこと、新しいことに挑戦できたこと、そしてキャリアアップしながら自分らしく仕事を続けることができたからだと思います。

●4年前に事務局長となり「人・物・お金」に頭を悩ませる日々ですが、長く勤める病院の医療法人成という大きな節目に関わることができたことを幸せに感じています。

●医療法人化の一番の目的は、「永続性」です。32年前に熱い想いで、この地に開設された病院が、これから更に30年、地域医療と専門診療を提供し続けることができるよう、更に強固な組織となる必要があります。

●地域の皆様に、「神戸朝日病院」があって良かったと思っていただけるような医療機関であり続けること、そして約200名の職員全てが、自分らしい夢や目標を大切に、長く働き続けることができる組織作りが、これからの私の仕事だと決意を新たにしています。

●これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



NSTの取り組み

●NST (Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム) とは、栄養のリスクのある患者様に、医師、薬剤師、看護師、栄養士、PT等多職種で構成されたチームで必要な栄養管理を行うことです。当院では、2004年4月より稼働し、2005年11月に日本静脈経腸栄養学会、2006年8月に日本栄養療法推進協議会でNST稼働施設認定を受けました。

●患者様の栄養状態の改善・治療効果の向上・合併症の予防・QOL (生活の質) の向上、ひいては在院日数の短縮・医療費の削減などを活動目的とし、週1回NSTミーティングを行い、栄養不良の患者様の抽出、早期介入をすることを主な活動としています。

●また、褥瘡チームと連携をはかり、栄養補給の必要な方には捕食を提供したり、誤嚥性肺炎や食事中“ムセ”がみられる方には、VE (嚥下内視鏡検査) を行い嚥下の評価を行うことで示された最適な栄養補給方法を提案します。

●地域包括病棟の患者様には、院内でのNSTに留まらず、自宅に戻られてからの栄養管理まで切れ目のないNST活動を行っています。

●昨年10月よりNST加算を算定、近隣の歯科医院との連携を密にし、2020年1月より歯科医師連携加算の算定を開始しました。歯科医師には、口腔の病気や全身疾患の予防を目的に、口腔内の清潔保持や嚥下(口の中に入った食べ物や飲み物を飲み下すこと)などの機能維持・改善を依頼しています。専門的な治療が必要と判断された場合は、さらに詳細に診査し必要に応じて介入していただきます。

●今後とも質の高い栄養管理の提供が出来るよう努力してまいります。



金 啓二 医療技術部長が“薬事功労者”として厚生労働大臣より表彰されました

●昨年10月、医療技術部長 金 啓二が厚生労働大臣より令和元年度の“薬事功労者”として表彰されました。

●長年にわたり医薬関係事業の発展・向上に貢献し、医薬行政の推進に顕著な功績があった個人及び団体に対して、その功績をたたえ、その功労に報いるとともに、医薬行政の推進に寄与することを目的として、厚生労働大臣が表彰するもので、令和元年は個人77名がその表彰の対象となり、10月21日(月)厚生労働省講堂に於いて表彰式が行われました。



受賞者コメント

医療技術部長 金 啓二

●今回、栄えある薬事功労者厚生労働大臣表彰を拝受いたしました。これは私個人で頂けるものでは決してなく、1989年から神戸朝日病院に勤務し、金 守良理事長(前院長)のご指導と患者の皆さまの温かいご鞭撻のおかげと言っても過言ではありません。これがゴールではなく、スタートラインとして、金 守良理事長、金 秀基院長の元で更に研鑽を積み、人間性豊かでもっと素晴らしい薬剤師になれるよう頑張っていきたいと考えております。皆さま、本当にありがとうございました。



栄養科 栄養士 高橋 美佳

【ロール白菜】



●冬になると店頭でよく見かける“白菜”。いろいろな料理でたびたび食卓にのぼる冬野菜の定番です。95%が水分で出来ているので非常に低カロリーですが、水分が多いからと言って栄養が含まれていないという訳ではなく、風邪予防に有効なビタミンC、ダイエットに大敵の便秘を解消するのに役立つ食物繊維、余分なナトリウムを排出し、むくみ予防になるカリウム、健康な骨作りに必要なカルシウムが含まれています。

●白菜は単体で食べても美味しいですが、味にクセがないので、他の食材を合わせた時にも主張しすぎることがなく、比較的いろんな食材と相性が良いです。

●今回ご紹介する「ロール白菜」もあっさりとしていて、キャベツとはまた違った味わいでおすすめです。ぜひ、お試しください。

■栄養量(1人分) エネルギー：399kcal 塩分：3.2g

材料(2人分)

豚ひき肉：80g	塩：少々
パン粉：12g	こしょう：少々
コンソメ：14g	パセリ：少々
白菜：4枚	サラダ油：4g
卵：16g	水：500ml
玉葱：60g	

作り方

- ①玉ねぎをみじん切りにして、フライパンで透明になるくらいまで炒め、冷めます。
- ②沸騰したお湯に白菜をそのまま入れ、しんなりするまでゆがきます。冷水に入れさまし水気をきります。
- ③ボウルに①の玉葱と豚ひき肉、パン粉、卵、塩、こしょうを入れよく混ぜ合わせる。これを4等分にし、白菜で包める大きさに丸めていく。
- ④③を②の白菜で包んでいきます。
- ⑤鍋に④を並べ、コンソメと水500mlで味をつけ、じっくりと中に火が通るまで煮込んでいきます。

認定施設

- 二次救急指定
- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本内科学会教育関連病院
- 臨床研修指定(神戸大協力型)
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設

交通のご案内

神戸電鉄「長田駅」より徒歩5分
 神戸市営バス ③・⑥・⑪・④⑩・⑩⑫
 「房王寺町5丁目」バス停より徒歩5分

